

## 自己評価報告書(最終報告)

報告者

授業実践・カリキュラム開発  
コース/川上 綾子

## ■平成23年度の目標に対する自己点検・評価

## I. 学長の定める重点目標

## I-1. 教育大学教員としての授業実践

本学の目的は、豊かな教養と教育実践力をもった教員を養成し、学校現場に送り出すことにある。このことを実現するには、教科専門・教科教育・教職専門等の各分野の授業が、学校現場の実践と関連性が保たれていることが必要である。あなたは、教員養成大学の教員として、本年度はどのような授業計画を立て実現しようとするのか、これまでの取り組み状況を総括し、具体的に示して欲しい。

## 1. 目標・計画

担当する授業において、学校現場の実践との関連性という点では日頃より次の二点を心がけてきた。一つは、学問分野における種々の概念と実践活動とが結びついていることを明示するため、当該授業のテーマに関係した現職教員の問題意識や実際の取り組み等に関する話題提供を積極的に行うことである。もう一つは、私自身の授業が、教授者から学習者への働きかけ(例えば、学習意欲を喚起するための手だて、効果的な情報提示の方法、学習者同士の相互作用の促進等)を考える手がかりになるよう努めることである。

今年度も、上記二点の方針に沿って授業を進めていきたい。具体的には、学習指導や学習評価の各トピックについて、現職教員の実践研究や私も加わった共同研究等から実証的データを示したり、実践の模擬的活動を導入したりすることを計画している。

## 2. 点検・評価

前期の授業については中間報告で記した通りである。後期の授業についても、年度目標で述べた二つの方針を心がけて展開した。具体的には、  
・理論の解説をする際、実践上の事例を関連づけて説明する  
・現職教員による実践上の課題を扱った研究の紹介を通して、講義内容に関わる現場での問題意識や改善への取り組み、その実証的データを示す  
・学習意欲の喚起、効果的な情報提示等、教授者から学習者への働きかけに関する手がかりを授業の中に埋め込む等である。すでに集計結果の出ている大学院の授業評価データからは、これらの手だてが概ね効果的であったことがうかがえた。

## II. 分野別

## II-1. 教育・学生生活支援

## 1. 目標・計画

- ①教職大学院の施設担当者として、院生の学習環境をより充実させるため、専攻全体で利用する演習室や資料室の一層の整備を進める。
- ②学部学生・院生とともに、研究面・生活面・進路面等の相談にはすすんで応じる。

## 2. 点検・評価

- ①教職大学院が専攻全体で利用する演習室や資料室の整備については、廃棄備品のリストアップ、保管資料の整理・整頓等に着手し、作業を進めている。
- ②コースやゼミの担当学生であるかどうかを問わず、学生からの研究面・進路面等の相談には積極的に応じた。

## Ⅱ－2. 研究

### 1. 目標・計画

- ①これまでの研究成果で未発表のものについて論文にまとめ学会誌や紀要等に積極的に投稿することによって、成果の公開に努める。
- ②科学研究費補助金等の学外の研究助成の公募に積極的に申請し、外部資金の調達を図る。

## 2. 点検・評価

- ①研究成果の発表・公開については鋭意取り組んでいるが、投稿論文の掲載については現時点では未定である。さらに引き続き、未発表のデータをまとめ、投稿していく予定である。
- ②研究代表者として応募した科研費基盤研究(C)については交付が内定した。

## Ⅱ－3. 大学運営

### 1. 目標・計画

- ①委員として所属する委員会等(30周年記念誌刊行委員会委員、学生総合相談室アドバイザー)において、本学の運営に貢献する。
- ②教職大学院における広報担当者として、本専攻の広報活動を推進し、定員確保に努める。

## 2. 点検・評価

- ①所属した委員会等(30周年記念誌刊行委員会委員、学生総合相談室アドバイザー)においては、それぞれ委員としての役割を果たした。
- ②教職大学院における広報担当者として専攻のパンフレット作成等に携わった。しかし、2012年度入学者も定員充足には至らなかったため、専攻の広報に関する新しい方策の積極的な提案とさらなる推進をしていく必要がある。

## Ⅱ-4. 附属学校・社会との連携, 国際交流等

### 1. 目標・計画

- ①附属学校の研究発表会, 授業研究会等に積極的に参加する。(附属学校)
- ②徳島県立総合大学校運営委員会委員として, 同校の円滑な運営に向けサポートする。(社会貢献)

### 2. 点検・評価

- ①附属学校の研究発表会は, 他の用務と重なり参加できなかった。
- ②徳島県立総合大学校運営委員会委員を務めた。

## Ⅲ. 本学への総合的貢献(特記事項)